加害者にならないためのサイバー攻撃防止法（第3回）

“身代金”を要求するウイルス

2016.12.14

ビジネスを脅かすサイバー攻撃の手口が巧妙化している。企業システムに不正にアクセスして機密情報や技術情報などを盗み取り、第三者に転売する金銭目的の攻撃が増えている。最近は「ランサムウエア」と呼ばれる“身代金要求型”ウイルスの被害が広がっている。不正プログラムを仕掛けて暗号化したファイルを“人質”に、データ復元の“身代金”を要求する。

情報処理推進機構（IPA）セキュリティセンターが2016年4月に公表した「情報セキュリティ10大脅威 2016」によると、「ランサムウエアを使った詐欺・恐喝」が組織部門で7位にランクインした。「不自然な日本語から一転して流暢な日本語でメッセージが表示されるランサムウエアが登場」しているという。

実際、2016年9月には国立大学でランサムウエアの感染が公表された。学内の業務用パソコン2台がランサムウエアに感染し、ネットワーク上にある約2万件のファイルが暗号化されたのだ。

企業に広がるランサムウエアの被害… 続きを読む